



## 熊本の病院紹介

### 再生に向けて

阿蘇市国民健康保険 阿蘇中央病院長

湯本 信也

当院は、阿蘇市黒川にあり、J R阿蘇駅近くに位置しています。

昭和二十五年五月に旧黒川村の国保直診施設として開設され、昭和二十九年の五ヶ町村合併で阿蘇町立の医療機関となり、更に、平成十七年二月の旧阿蘇郡の一の宮町・同阿蘇町・同波野村の合併により阿蘇市が誕生し、現在は市立病院としての阿蘇市国民健康保険阿蘇中央病院となっております。

診療科は八科を標榜し、一二四床（うち感染症四床）の病床数を有しております。

当院は、昨年開設六十周年を迎えましたが、施設設備は老朽化が著しく、医師、看護師は不足し、健全経営の維持も厳しく、地域の中核病院としての新たな医療需要にも対応することが困難な状態となっております。

このような状況を打開するため、

現市長の下で、平成二十年十月に

『建設推進懇話会』が設置され、同二十一年三月に新築移転及び病院運営等の方向性をまとめた報告書が提出されました。そのような折、直後の六月に、国が都道府県の地域医療再生計画事業に交付金を措置するという政策を發出し、熊本県、阿蘇市の尽力により、同報告書の内容をふまえ当院の新築整備が事業として採択されることになり、新病院建設に交付金の一部を活用することが可能となりました。

その後、院内に建設準備室を設置するなどの組織整備を図り、新病院の建設地を阿蘇中学校の跡地に決定し、平成二十五年度末までの完成を目指し、今年度内に設計を終え、二十四年夏には本体工事着工の予定で作業を進めることとなりました。また、新病院の建設及び運営の方向性等にあたっては、阿蘇市や当院の関係者以外の有識者で構成される『建設推進協議会』を市長の下に設置し、広く意見・助言をいただき今後の病院運営に資することとしております。

県の地域医療再生計画では、阿蘇

医療圏における〇二次救急医療体制の再生〇地域完結型医療提供体制の構築が大きな柱となっており、その達成には阿蘇中央病院が拠点的作用を担っていくことの必要性が述べられております。また同計画には、医師不足問題等の解決策として、熊本県が熊大病院に『脳卒中・急性冠症候群医療連携寄附講座』を設置するという事業も盛り込まれております。事業内容は、同講座が当院への医師派遣、救急医療体制整備、地域医療連携体制構築等に関して支援するというもので、既に今年度から活動を進めていただいております。

現状での当院の医療提供機能は限定的なものです。それでも救急告示病院として少数医師で二次救急医療体制を今日まで維持しており、地方公立病院の役割はなんとか保っていると思っております。

新病院は、県の地域医療再生計画と新築に伴う当院の基本計



阿蘇中央病院

画書に沿って整備されることにより、医療提供機能は格段に向上し、地域の中核病院としての役割を果たすことが十分に期待されます。平成二十六年以降に、再生した当院を紹介できる機会を再び与えていただければ幸いです。